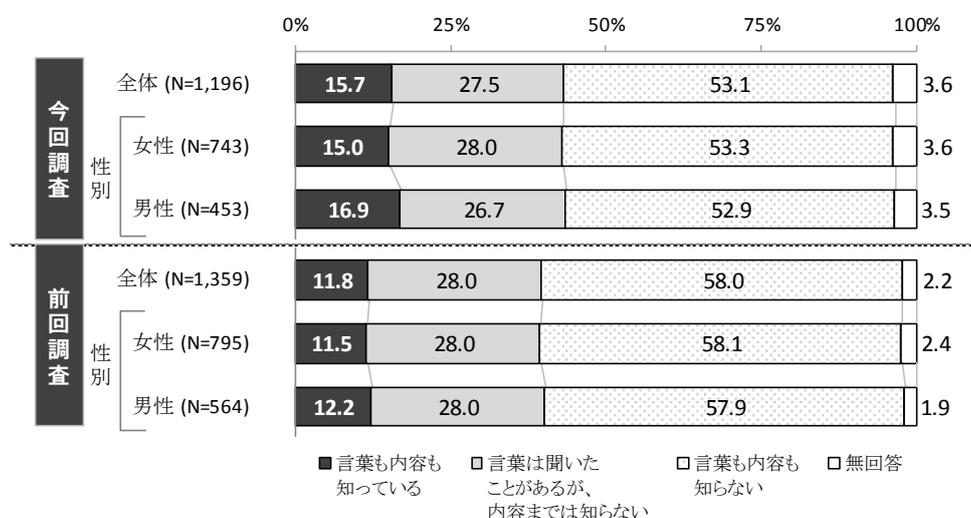


第5章 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

1. 「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」の認知度

問 11. 「仕事」と「家庭生活（家事、育児、介護など）」と「地域・個人の生活（地域活動、学習、趣味、つきあいなど）」をバランスよく展開していくことを「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」といいます。あなたは、この言葉を知っていましたか。あてはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

図 「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」の認知度[全体、性別](前回調査比較)



「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」という言葉を知っているという言葉を「言葉も内容も知っている」と答えた人は15.7%、「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」が27.5%と3割程度、「言葉も内容も知らない」は53.1%である。この言葉が普及し始めて久しいが認知はそれほど高くない結果となった。

性別にみると、「言葉も内容も知っている」は女性が15.0%、男性が16.9%で、「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」は女性が28.0%、男性が26.7%と、男女の認知度の差はほとんどみられない。

前回調査と比較すると、男女とも「言葉も内容も知っている」が約3～5ポイント上がっている。

年齢別にみると、「言葉も内容も知っている」は女性の40歳代以下で、男性では30歳代から50歳代で2割前後と高い。男性の20歳代と女性の50歳代と60歳代では「言葉も内容も知っている」が1割に満たない。

職業別にみると、「言葉も内容も知っている」は学生で35.7%と最も高く、これに勤め人で管理職が30.1%、勤め人で事務職・営業職が28.1%、勤め人で専門技術職が21.9%と続いている。学生では授業や就職活動で、勤め人では社内研修等で周知がなされていると思われる。

表 「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」の認知度[全体、年齢別、職業別]

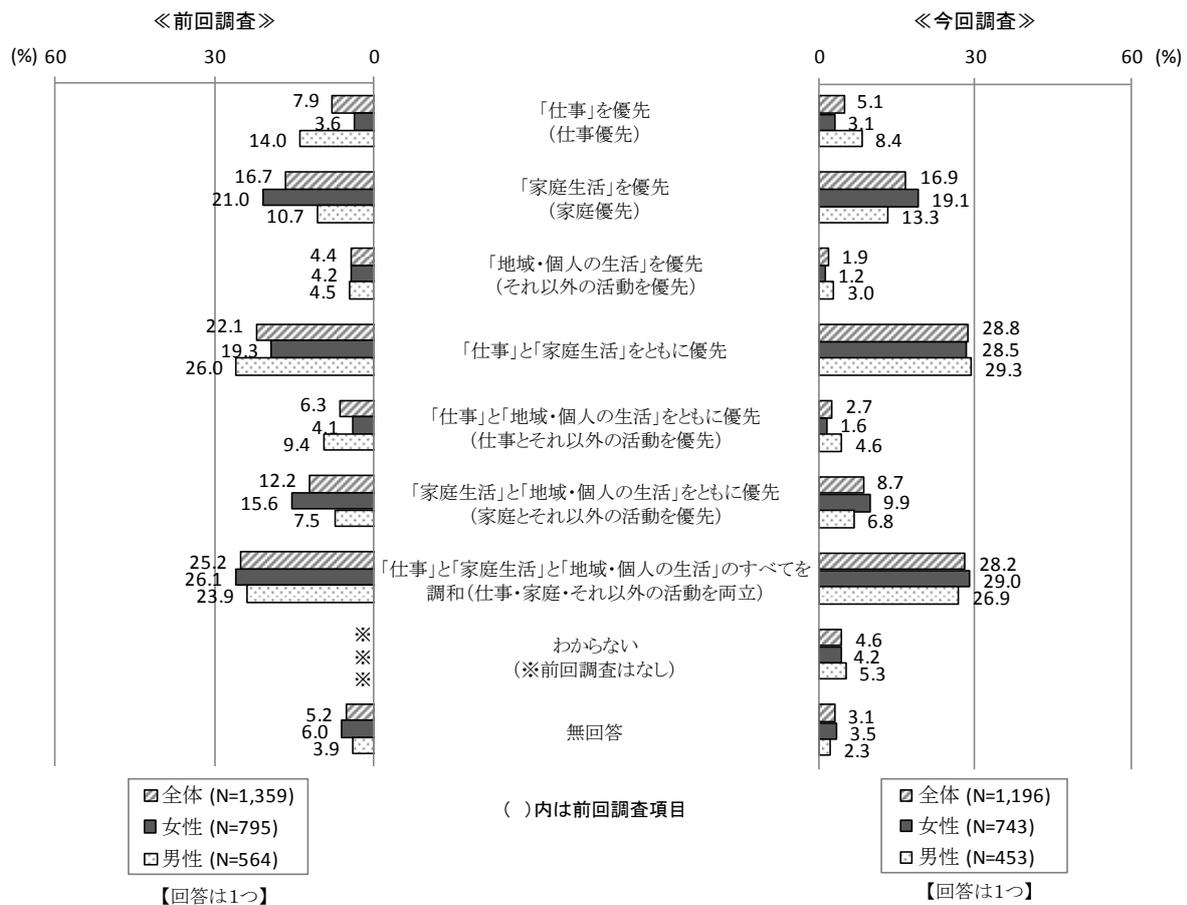
		合計	言葉も内容も知っている	言葉も内容も知らない	言葉も内容も知らない	無回答
全体		1,196 100.0	188 15.7	329 27.5	635 53.1	43 3.6
年齢別	女性:20歳代	61	19.8	22.2	58.0	-
	女性:30歳代	99	21.9	19.0	59.1	-
	女性:40歳代	140	21.8	23.5	54.4	0.3
	女性:50歳代	133	8.7	28.9	59.2	3.3
	女性:60歳代	184	8.1	34.8	52.9	4.2
	女性:70歳以上	124	17.1	32.1	39.1	11.7
	男性:20歳代	30	8.0	22.6	69.4	-
	男性:30歳代	54	18.8	25.0	53.5	2.7
	男性:40歳代	77	24.2	24.8	49.1	1.9
	男性:50歳代	93	21.1	21.7	54.1	3.1
	男性:60歳代	125	11.6	30.0	52.7	5.7
	男性:70歳以上	71	15.7	32.0	48.3	4.1
		無回答	5	-	40.0	60.0
職業別	自営業主(農林漁業)	29	1.6	24.5	59.2	14.7
	自営業主(商工サービス業)	59	9.8	22.8	64.1	3.2
	自営業主(開業医、作家、スポーツ選手など)	9	15.7	16.1	68.2	-
	家族従業者(農林漁業)	27	8.8	42.2	43.7	5.3
	家族従業者(商工サービス業)	38	6.4	39.2	54.4	-
	勤め人で管理職	40	30.1	36.1	33.8	-
	勤め人で専門技術職	138	21.9	22.3	54.1	1.7
	勤め人で事務職・営業職	161	28.1	26.7	44.9	0.3
	勤め人で販売・サービス業	109	10.2	20.7	66.9	2.2
	勤め人で技能・労務・作業職	144	13.7	29.4	52.5	4.3
	学生	13	35.7	28.5	35.7	-
	家事に専念している主婦・主夫	164	14.1	27.4	56.5	2.0
	無職	218	11.7	31.6	51.5	5.1
	その他	12	16.0	4.0	80.0	-
		無回答	34	5.6	28.5	38.7

2. 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の関わり方

問 12. 今後の生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度についておたずねします。(A) 希望、(B) 現実のそれぞれについて、あなたの考えに近いものを1つずつ選び番号に○印をつけてください。 ※現在、職業についていない方は、考えをお答えください。

(1) 希望

図 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の関わり方<<希望>>[全体、性別](前回調査比較)



生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の希望する優先度をたずねた。

「仕事」と「家庭生活」をともに優先(28.8%)と「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」のすべてを調和(28.2%)が約3割と高く、「家庭生活」を優先が16.9%となっている。

性別にみると、上位2項目では男女差はみられないが、「家庭生活」を優先は女性が5.8ポイント高くなっている。また男性では割合は低いだが「仕事」を優先が5.3ポイント女性を上回っており、性別役割分担に基づく志向がうかがえる。

前回調査と比較すると、「仕事」と「家庭生活」をともに優先は男女とも割合が増えているが、特に女性では9.2ポイント増となっている。また、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」のすべてを調和においても男女ともに約3ポイント増えている。女性の「家庭生活」を優先に変化はないが、男性の「仕事」を優先は5.6ポイント減少しており、男性では仕事とそれ以外の

生活を両立させる希望が前回調査より高くなっている。

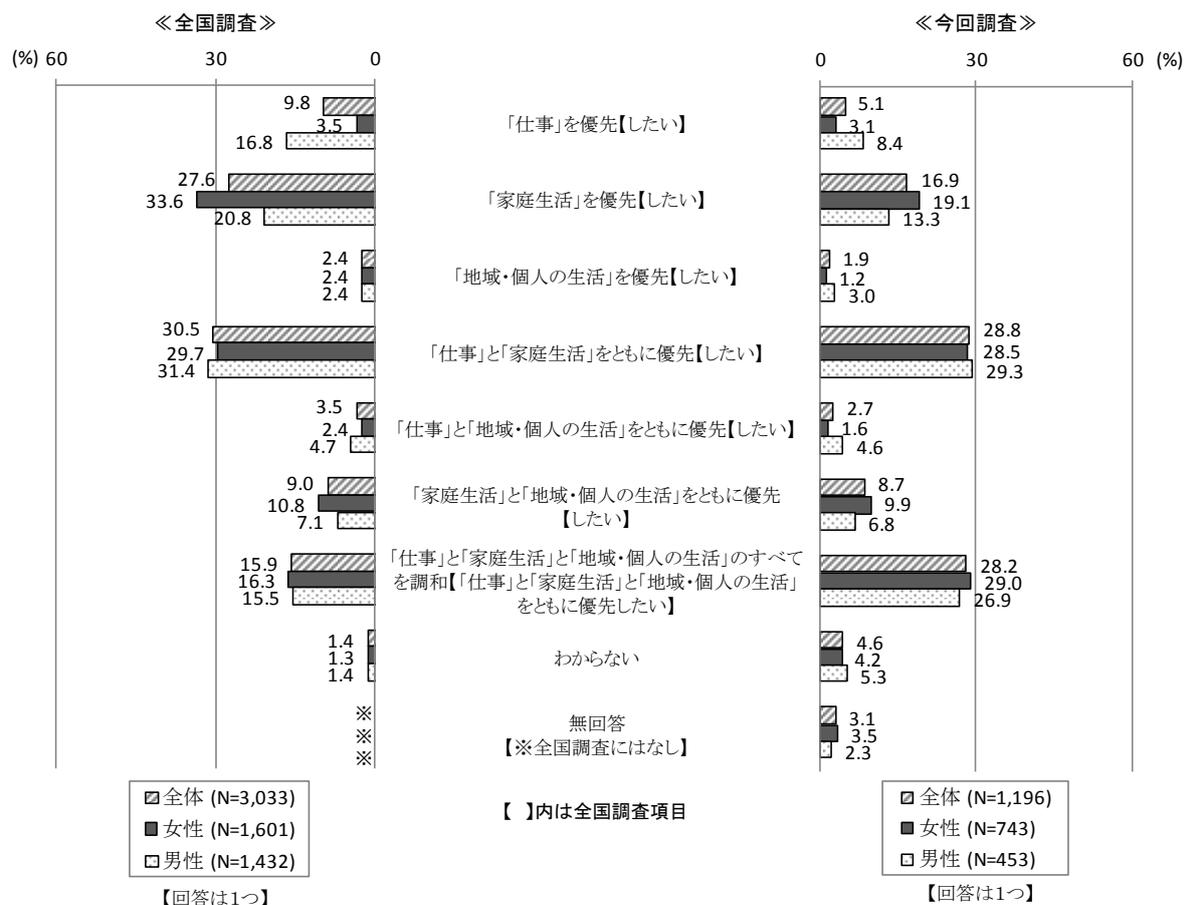
年齢別にみると、男性の20歳代と男女の40歳代と50歳代では「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」のすべてを調和が3割を超えて高くなっている。女性の20歳代では「仕事」と「家庭」をともに優先が43.0%と最も高くなっている。また、女性の30歳代と40歳代では「家庭生活」を優先が2割台、男性の30歳代では「仕事」を優先が10.7%と他の年代に比べて高くなっている。

表 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の関わり方<<希望>>[全体、年齢別]

(%)

		合計	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	を「地域・個人の生活」を優先	を「仕事」と「家庭生活」をともに優先	の「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	優先個人「家庭生活」と「地域・個人の生活」を調和	のと「仕事」と「地域・個人の生活」を調和	わからない	無回答
全体		1,196 100.0	61 5.1	202 16.9	23 1.9	344 28.8	32 2.7	104 8.7	338 28.2	55 4.6	37 3.1
年齢別	女性:20歳代	61	3.1	16.7	-	43.0	3.2	4.7	25.3	4.0	-
	女性:30歳代	99	4.4	25.9	-	29.3	-	10.2	29.7	0.5	-
	女性:40歳代	140	1.4	27.3	1.0	29.0	2.4	5.8	31.3	1.4	0.3
	女性:50歳代	133	4.3	14.5	1.4	30.5	1.1	5.1	37.3	2.2	3.6
	女性:60歳代	184	5.0	14.4	1.6	27.0	1.3	13.6	27.8	5.2	4.2
	女性:70歳以上	124	-	17.0	2.3	20.2	2.0	15.9	21.3	10.8	10.4
	男性:20歳代	30	9.7	6.4	6.5	27.4	-	1.6	30.6	17.8	-
	男性:30歳代	54	10.7	13.4	-	33.9	2.7	4.4	29.5	2.7	2.7
	男性:40歳代	77	6.2	15.6	3.1	29.2	5.6	5.0	31.1	2.5	1.9
	男性:50歳代	93	8.8	9.3	2.6	33.0	3.6	3.6	36.5	2.1	0.5
	男性:60歳代	125	9.2	13.1	3.5	30.7	6.6	9.3	17.8	6.5	3.4
男性:70歳以上	71	6.8	19.7	3.4	19.0	4.8	13.0	21.8	7.5	4.1	
無回答		5	-	20.0	-	40.0	-	20.0	20.0	-	-

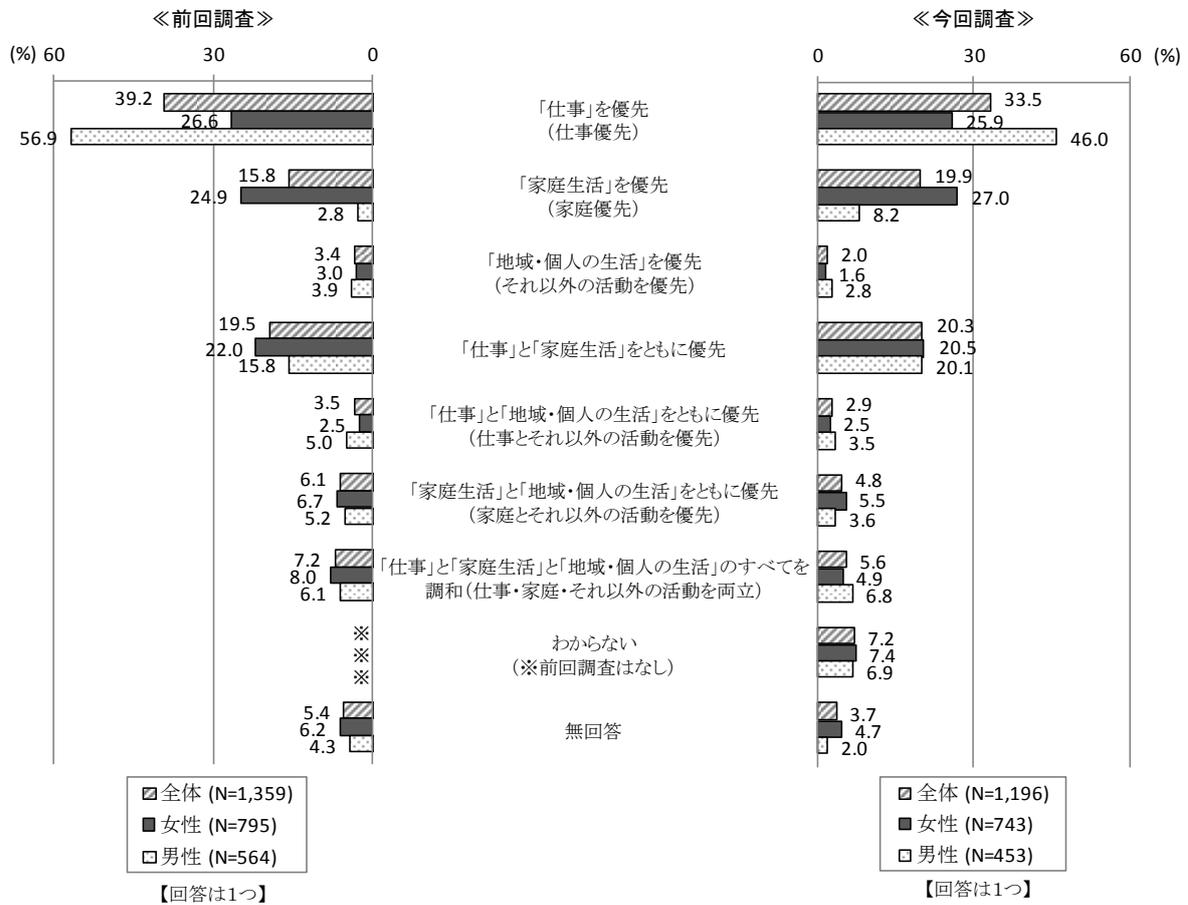
図 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の関わり方<<希望>>[全体、性別](全国調査比較)



全国調査と比較すると、「仕事」と「家庭生活」をともに優先は男女とも大差はないが、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」のすべてを調和は本調査の方が男女とも10ポイント以上上回り、「家庭生活」を優先は女性で14.5ポイント、男性で7.5ポイント下回っている。また、男性の「仕事」を優先も半減しており、本調査では「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の3つの調和を希望する人が多い。

(2) 現実

図 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の関わり方《現実》[全体、性別](前回調査比較)



現実の優先度としては、「仕事」を優先が33.5%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先が20.3%、「家庭生活」を優先が19.9%となっている。希望する優先度の結果と比較すると、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」のすべてを調和を希望する人は28.2%であるが、現実には5.6%、また「仕事」を優先の希望は5.1%であるが、現実には33.5%と現実と希望の差が大きい。

性別にみると、女性では「家庭生活」を優先が27.0%、「仕事」を優先が25.9%、「仕事」と「家庭生活」をともに優先が20.5%となっている。希望で高かった「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」のすべてを調和は現実では4.9%と低くなっている。男性では「仕事」を優先が46.0%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先が20.1%でその他の値は低い。男性は仕事、女性は家庭を優先する割合が高く、現実生活の性別役割分担がみて取れる。「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」のすべてを調和できることは理想ではあるが現実には難しい状況にあり、特に男性にその傾向が強いことがわかる。

前回調査と比較すると、男性で「仕事」を優先が10.9ポイント減少し、「仕事」と「家庭生活」をともに優先「家庭生活」を優先の割合が約4～5ポイント増えており、男性のワーク・ライフ・バランスはやや進んできたといえる。

年齢別にみると、女性の20歳代では「仕事」を優先（52.4%）、30歳代では「家庭生活」を優先（40.5%）に割合が集中している。40歳代では再び「仕事」を優先（34.5%）が高く、一方で「家庭生活」を優先（25.9%）や「仕事」と「家庭生活」をともに優先（26.2%）なども高く、50歳代では「仕事」と「家庭生活」をともに優先（35.1%）、60歳代では「家庭生活」を優先（33.5%）が最も高くなっている。女性の年齢別就労状況における女性の働き方の特徴であるM字型就労と同様の傾向がみられる。

男性では、20歳代から40歳代で「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先は皆無で、「仕事」を優先が5割以上となっている。「仕事」と「家庭生活」をともに優先は30歳代や50歳代、60歳代で2割台と他の年代に比べると高く、仕事と家庭を優先している人も一定数いる。また30歳代では「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」のすべてを調和も12.5%あり、生活時間でもみてきたように子どもに手のかかる年代では育児時間が長く、結果としてワーク・ライフ・バランスを実践している男性は他の年代に比べると多くなっている。

表 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の関わり方《現実》[全体、年齢別]

(%)

		合計	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」のすべてを調和	わからない	無回答
全体		1,196 100.0	401 33.5	238 19.9	24 2.0	243 20.3	35 2.9	57 4.8	67 5.6	87 7.2	44 3.7
年齢別	女性:20歳代	61	52.4	13.5	2.4	15.8	2.4	-	-	11.1	2.4
	女性:30歳代	99	29.3	40.5	-	19.0	3.4	3.4	1.0	3.4	-
	女性:40歳代	140	34.5	25.9	1.4	26.2	-	3.8	2.7	5.1	0.3
	女性:50歳代	133	25.1	14.8	0.4	35.1	-	5.0	11.2	4.7	3.6
	女性:60歳代	184	19.9	33.5	1.3	12.3	4.5	6.5	6.6	8.9	6.6
	女性:70歳以上	124	10.9	26.7	4.3	14.4	4.7	10.1	3.9	12.4	12.8
	男性:20歳代	30	53.3	4.8	-	11.2	-	-	4.8	25.8	-
	男性:30歳代	54	54.5	-	0.9	22.3	5.4	-	12.5	1.8	2.7
	男性:40歳代	77	65.2	6.8	-	13.7	1.9	-	1.9	8.7	1.9
	男性:50歳代	93	52.1	5.7	2.1	23.1	4.6	0.5	8.2	3.1	0.5
男性:60歳代	125	36.8	12.7	3.1	25.4	2.3	6.6	6.2	4.6	2.3	
男性:70歳以上	71	23.8	12.9	8.8	15.0	6.1	10.9	8.2	10.2	4.1	
無回答		5	20.0	40.0	-	20.0	-	20.0	-	-	-

全国調査と比較すると、「家庭生活」を優先とする女性の割合は今回調査では27.0%で、全国調査の45.3%を18.3ポイント下回り、男性でも10.7ポイント低くなっている。一方、「仕事」を優先は、今回調査での女性の割合は25.9%で、全国調査の15.7%を10.2ポイント上回り、男性も46.0%と、全国調査の37.7%を8.3ポイント上回っている。その他の項目ではあまり大きな変化はみられない。男女とも全国に比べ、家庭を優先する人は少なく、仕事を優先する人が多い結果となっている。

図 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の関わり方<<現実>>[全体、性別](全国調査比較)

